

## 「2 学校からの帰り道で大地震が起きたら」

- 学習のねらい
1. 路上で、どのような危険が起こるかを理解する。
  2. 状況ごとの適切な危険回避の方法を理解する。
  3. 避難時に注意すべきことを理解する。

(指導上のポイント)

◆児童が危険と考えた理由についても発表させる。

◆絵の中で考えられる危険の他に、2次災害として、火災・爆発、土砂災害(地すべり、土石流、がけ崩れ)、液状化などが考えられるが、地域の実情に応じて追加する。

◆各自の通学路で、どのような危険が発生するかを考えさせる。

◆通学路で身を守る方法について考えさせる。

例) ブロック塀から離れる。

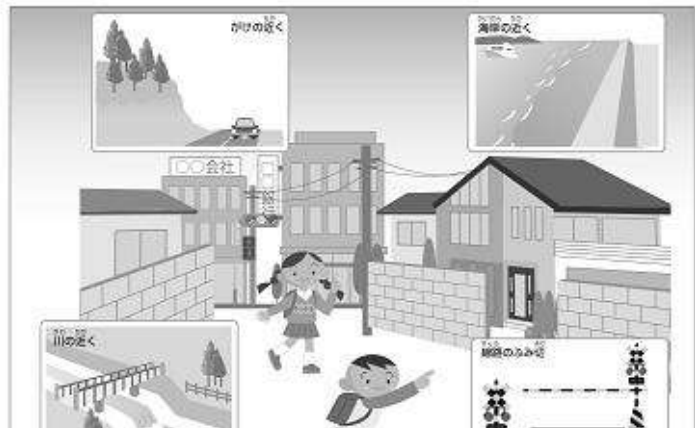
カバンや手で頭を守る。

◆津波のおそれのある場合や津波警報が発表され浸水被害の危険がある場合は高台へ、土砂災害等の危険がある場合は危険箇所をあらかじめ知っておき、危険箇所から離れた場所へ避難することを指導する。

## 2 学校からの帰り道で大地震が起きたら

### (1) 帰り道で危険なこと

帰り道で地震が起きたら、どんな危険なことが起こるでしょうか？  
下の絵と写真を見て考えてみましょう。



家屋やビルの窓ガラスの落下、壁の剥落、家屋の倒壊、屋根瓦の落下、看板の落下、ブロック塀の破損・転倒、切れた電線による感電、津波 など



「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に。

5

### 《重要》

○地域や場所により考えられる危険はさまざまだが、以下の原則を守るよう指導する。

- ①危険が考えられる場所から離れる。
- ②駐車場や空き地など広い場所へ逃げ、カバンなどで頭を守る。
- ③揺れそのものだけでなく、続いて起こり得る火災、停電により信号が停止し、混乱する車等にも注意する。
- ④津波の恐れがある地域では、揺れがおさまったらすぐに高台などへ逃げる。
- ⑤危険な場所については、大人が大丈夫というまで近づいてはいけない。

(2) 学校からの帰り道で大地震が起きたら

どうしたら身を守ることができるでしょうか？下の絵を見て考えたことを書いてみましょう。

場所	予想される危険	身の守り方
家の近く	屋根瓦の落下、壁の剥落	家から離れる。
交差点	信号停止による交通事故	交差点に近づかない。
自動販売機	自動販売機の転倒	自動販売機から離れる。
ほかに、どんな場所が考えられますか？書いてみましょう。		
〇〇店の広告看板	広告看板の落下	看板から離れる。
〇〇海岸	津波	高い場所へ逃げる。
〇〇家のブロック塀	ブロック塀の倒壊	ブロック塀から離れる。

ゆれがおさまって、避難するときは…

- 放送があったら、静かにきこく。
- そのときにいる場所で起こる危険なことを考えて避難しよう。
- 津波が来そうなときは、急いで高い場所へ避難しよう。
- 安全な場所に避難したら、もどらない。



6

関連学習：ワークシート①  
「避難マップを作ろう」

(次年度以降の展開例)

- ・通学路（または学校や自宅の周辺）の地図を用意し、身近な屋外で、どのような危険が発生するか、またどう回避するかを考えさせる。
  - ・登下校時の避難行動の訓練や防災タウンウォッチングの際に活用する。
- などが考えられる。

【発展問題】

○地震や水害など大きな災害が発生した時に、命を救う仕事には、どのようなものがあるでしょうか。

(回答例) 自衛隊、消防、警察、赤十字、行政（国、県、市町）など

(指導上のポイント)

◆地震発生時の初期対応として「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所を見つけ出して身を寄せ、自分で自分の身を守ることを指導する。

(指導上のポイント)

◆津波浸水が予測される地域では、津波浸水予測範囲

(参照：三重県防災対策部HP

<http://www.bosaimie.jp/resource/>

1495426761000/X\_MIE\_ne000)で、津波の浸水地域を示し、「ここまで津波が来るかもしれない」ことを説明する。

予測は、あくまでも目安なので、「ここから先は大丈夫」と考えず、とにかく地震発生時には、川や海に近づかないように指導する。

◆「津波が来そうなら、急いで高い所へ避難しよう」とあるが、各市町に津波避難場所を確認するなど、地域の実情に合わせて指導する。

◆原則として、登下校中に地震が起こった場合は、自宅か学校の安全で近い方へ向かうことを指導する。

ただし、自宅や学校が沿岸部にある場合は、海岸に向かって逃げたりした時に津波の被害を受ける時があるので高台へ逃げるよう指導する。

◆身の安全を確認できた場合は、できるだけ早く学校へ連絡するか、学校からの安全確認の連絡を待つよう指導する。

(確認)

帰り道での危険を知り、適切な回避行動を取れば、けがを防ぎ安全な場所へ避難できることを理解できたか。